

平成26年度国立大学法人等
職員採用（図書系）二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は**20問（23ページ）**で、解答時間は**2時間**です。
2. この問題は、後ほど回収します。切り取ったり、転記したり、持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄に第一次試験受験番号、第一次合格通知書番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号	第一次合格通知書番号
氏名	

指示があるまで中を開いてはいけません

【No. 1】

次は、現在の我が国の大学図書館に関する記述である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 「学校教育法」に基づく文部科学省令「大学設置基準」では、図書館は、事務室、研究室、教室、医務室、学生自習室等とならんで教育研究上大学に必要な施設であると定められている。
- (2) 我が国には1,000校を超える大学（短期大学を含まない）があり、これらの大学にはキャンパスや学部ごとに置かれている分館を含めると、1,700館近い図書館や図書室が設置されている。
- (3) 大学について定めている法律として、国立大学法人には「国立大学法人法」があり、この法律では、大学図書館の機能や業務、さらには閲覧室の座席数や図書・学術雑誌の冊数等についての数量的な基準も定められている。
- (4) 大学図書館を対象として毎年実施されている調査には、文部科学省による「学術情報基盤実態調査」がある。その調査対象館には、短期大学、高等専門学校その他の機関は含まれていない。
- (5) 大学図書館の一般の人々への公開は、大学の社会貢献の一つとして位置づけられており、「学術情報基盤実態調査」によれば、9割を超える大学図書館が学外者の図書館の利用を認めている。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4) (5)

【No. 4】

次は、大学図書館における図書館資料の利用及び複製に関する記述である。我が国の現行著作権法に照らし、著作権保護期間内であっても著作権者の許諾や個別の契約によらず、大学図書館が行えるものには○を、行うことが適切でないものには×を答えなさい。

- (1) 医学部の教員からの求めに応じ、医学雑誌の最新号に掲載された全12ページの論文のうち、研究に必要な症例の写真が載っている1ページのみを複写し提供する。
- (2) 視覚障害を持つ学生のために、図書館が購入して間もない新刊書を点字化して利用に供する。ただし、同書の点字図書が刊行されていないことは確認している。
- (3) 大学院生から調査研究を目的とした求めに応じ、2000年に刊行された図書『A教授退職記念論文集』に掲載されている論文1篇の全ページを複写し提供する。
- (4) 利用者からの求めに応じ、著作権の保護期間中ではあるが、刊行した出版社が既に存在していない図書について、全ページを複写し提供する。
- (5) 劣化が激しくそのままでは利用が困難な蔵書について、著作権の保護期間中ではあるが、絶版になり他の媒体でも入手不可能な図書の全ページを、デジタルカメラで撮影して冊子の複製を作成し閲覧に供する。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4) (5)

【No. 5】

次は、平成25年8月に科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会から出された、「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」に関する記述である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 大学図書館では、最新の学術資料を迅速かつ効果的に提供する観点から、印刷資料の整備よりも電子ジャーナルや電子書籍等の電子資料を優先的に充実させていく必要がある。
- (2) 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備の要素として、コンテンツ、学習空間、人的支援の三つがあげられる。この三要素を集約的に機能させている大学図書館は、アクティブ・ラーニングの推進において、より積極的に関与していくべきである。
- (3) 図書館の果たす役割の変化に伴い、さまざまな学修を支援する活動の企画・実施を担当する専門職として、教員や事務職員とは異なる中間職的な人材が必要になる。そのような人材は専門性を確保するために、図書館員ではなく研究者の中から育成されるようなシステムを構築する必要がある。
- (4) ラーニング・コモンズの設置場所については、コンテンツや人的支援を提供できる環境を有している大学図書館が適切であり、学部やセンター等の部局に分散させてはならない。

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

(4)

【No. 6】

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

□とは、スタンフォード大学のローレンス・レッシング教授が提唱した活動で、電子的な著作物を厳密に管理するのではなく、その円滑な流通、再利用を促進しようとするプロジェクト、またはそれを推進する団体の名称である。著作物が第三者によって再利用できるように、「自由に共有できるコンテンツ」によって形成される共有地を創出することを目指している。そのために、□ではコンテンツの提供にあたって、共通の利用ライセンスを用いて、そのライセンスに基づいて公表されたことを示すロゴマークをコンテンツ自体に付与し、利用できる範囲を明示することを提唱している。

その背景には、創作は、先人の創作を踏まえ、それに新たなものを積み重ねる形で生み出されるものであり、コンテンツの公表にあたっては、著作物の利用を制約する仕組みを前提にするのではなく、自由な共有のための開放を前提にすることが、コンテンツの豊かな創作活動の連鎖をもたらすためには望ましいという考え方がある。

(1) □に該当する語句を下から選んで記号で答えなさい。

- (a) オープン・アーカイブ (b) クリエイティブ・コモンズ (c) コピーレフト
(d) パブリック・ドメイン (e) フリー・アクセス

(2) 下線部に関して、第三者による不正な複製や再利用を防ぐために、電子的な著作物の著作権を管理・保護するための技術（電子透かしやファイル複製の制限技術等）を総称して何というか。

【解答欄】

(1)

(2)

【No. 7】

次は、各図書を「日本十進分類法新訂9版」に基づき第3次区分表(3桁)で分類したものである。□に該当する数字(0～9)を答えなさい。

- (1) 大学への進学：選抜と接続 / 中村高康編集 □ □ 7
(リーディングス日本の高等教育；1)
- (2) インド仏教思想史 / 三枝充恵著 □ □ 2
- (3) 能・狂言の見方楽しみ方 / 柳沢新治著 □ □ 3
- (4) 最高に楽しい建築構造入門 / 江尻憲泰著 □ □ 4

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4)

【No. 8】

「日本目録規則 1987 年版改訂 3 版」における書誌的事項の記述として、正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 本タイトルとは、その情報資源を、他の情報資源から区別する主要なものであり、総称的な語、イニシャル、著作者名のみのは他との区別が困難であることから本タイトルには含まれない。
- (2) 情報源から責任表示と把握される団体と同じ名前がタイトルの中に組み込まれており、そのタイトルだけで責任表示が明らかな場合は、責任表示の記録は省略できる。
- (3) 版表示の記録は、情報源にある表示をそのまま記録することとなっているが、印刷回数等の記録である刷次に対しても「版」が用いられるケースもある。その場合は内容等の変更を伴った「版」であるかどうかを判断し、「刷次」と判断されるならばこれを記録する必要はない。
- (4) 出版年・頒布年等は、その情報資源の出版・頒布・公開・発行等の年または日付を指し、常に情報資源に表示されている最新の年を記録しなければならない。
- (5) シリーズに関する書誌的事項の情報源は「その資料から」とされており、出版者・製作者等が作成するシリーズ全体の構成や刊行順が記載されたカタログ等から情報を得ることはできない。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4) (5)

【No. 9】

次は、電子ジャーナルの契約に関する記述である。間違っているものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 「バックファイル」(Back File) とは、契約時より前に刊行された電子ジャーナルのことで、購読契約を中止した後にバックファイルを引き続き利用できるかどうかは契約条件による。
- (b) 「ビッグ・ディール」(Big Deal) とは、その出版社が刊行する電子ジャーナルのほぼ全てのタイトルを利用できる契約形態のことで、1タイトルごとの契約よりも、割安の価格が設定されている。
- (c) 「大学図書館コンソーシアム連合」(JUSTICE) は、日本の大学における電子ジャーナル等の学術情報を安定的・継続的に確保して提供するための活動を推進しており、全国の大学に導入する電子ジャーナルの契約を一括して行っている。
- (d) 「ペイ・パー・ビュー」(Pay Per View) とは、電子ジャーナルを論文単位で1件ダウンロードするたびに料金を支払う利用方法のことで、年間購読契約と比べて割高だが、契約していない雑誌の論文でもクレジットカード決済等によってすぐに入手できる。
- (e) 「リモートアクセス」(Remote Access) とは、外出先や自宅から大学のネットワークを利用し、学内LAN経由と同様に、大学で契約している電子ジャーナル等の利用を可能にすることである。出版社によっては、契約条件でリモートアクセスの利用を認めていないこともある。

【解答欄】

【No. 11】

国立情報学研究所及び国立国会図書館は、我が国の学術情報流通に大きな役割を果たしている機関である。それぞれの機関が実施する事業を三つずつ下から選んで記号で答えなさい。

- (a) 日本の学協会の電子ジャーナルの投稿から査読・審査、公開までをオンライン化し、科学技術情報の発信と流通の迅速化と国際化を図る「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を運用している。
- (b) 日本の博士論文を網羅的に収集してデジタル化し、十数万点の書誌・目次情報と、そのうち著者の許諾を得た一万数千点の主論文本文をインターネットで公開している。
- (c) 大学の教育研究活動の成果である学術情報の収集、組織化、保存及び発信を行うための「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」を実施している。
- (d) オープン・アクセスの推進、学術情報流通の促進及び情報発信力の強化に取り組み、学術コミュニケーションの変革を目指す「国際学術情報流通基盤整備事業」(SPARC Japan)を実施している。
- (e) 明治以降に刊行された図書・雑誌のうち、インターネットで閲覧可能なデジタル化資料を「近代デジタルライブラリー」として公開している。
- (f) 国の諸機関が保管するアジア歴史資料をデータベース化し、インターネットで公開する「アジア歴史資料センター」を設置している。
- (g) 日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに提供する「日本古典籍総合目録データベース」を公開している。
- (h) 東日本大震災に関する記録等を後世に伝え、今後の復興や防災に役立てるため、大震災の記録等を収集・保存し提供する事業で、「ひなぎく」というポータルサイトを運用している。
- (i) 電子ジャーナル等の電子的な学術情報の利用・提供のため、大学内でのシングルサインオンや、学外から学内へのシームレスなアクセスを可能とする「学術認証連携基盤」(GakuNin)を構築・運用している。

【解答欄】

- (1) 国立情報学研究所 [] [] []
- (2) 国立国会図書館 [] [] []

【No. 12】

次は、情報資源の組織化に関する用語の説明である。(1)～(3)の用語を英語略称で答えなさい。

- (1) W3C (World Wide Web Consortium) によって策定されたマークアップ言語であり、電子商取引やRSS等ウェブ上でのサービスで実際に活用されている。この言語による文書は階層構造を持っており、基本的には各ノードに対応するデータをタグではさみ込むことによって文書を表現する。はさみ込むデータの長さに制限がないこと、記述項目を示すタグを自由に定義できること等の特徴がある。
- (2) 目録に記載される情報を、一定のフォーマットによりコンピュータで直接処理できるような媒体に記録したもので、日本語では「機械可読目録」と呼ばれる。目録作成にコンピュータが応用可能になったことに伴って作成されるようになった。その頒布によって目録作成の省力化と書誌記述の標準化が促進されたが、端緒となったのは1960年代の米国議会図書館による試みである。
- (3) 書誌レコードに求められる機能要件を考察し、データベースの設計技法の一つである「実体－関連分析」(E-R分析) と呼ばれる手法を用いて、書誌レコードの概念モデルを示したもの。1997年にIFLA (International Federation of Library Associations and Institutions) によって発表された。「英米目録規則第2版」(AACR2) に代わる目録規則として2010年に公表されたRDAは、このモデルに準拠している。

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 15】

次は、あるデータベースのシソーラスの一部である。(1)～(5)の記述のうち正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

データベース (A)	データベース (B)
Equal Education	Universal education
UF Educational Equality	UF Education for all
UF Equality of Education	UF Equal education
UF Equity (Educational Opportunities)	UF Equal opportunity in education
UF Universal Education	BT Educational opportunities
BT Civil Rights	BT Right to education
BT Education	NT Compulsory education
NT N/A	NT Free education
RT Academic Accommodations (Disabilities)	RT Access to education
RT Achievement Gap	RT Democratization of education
RT Barriers	RT Inclusive education
RT Civil Rights Legislation	
RT Educational Opportunities	Education for all
RT Sex Fairness	USE Universal education
Universal Education	
USE Equal Education	Equal education
	USE Universal education

- (1) データベース (A) では、Equal Education の上位語は Civil Rights と Education である。
- (2) データベース (A) では、Equal Education が最下位の語である。
- (3) データベース (B) では、Universal education を調べる時には Education for all が優先語となる。
- (4) データベース (B) では、Access to education は Universal education の関連語である。
- (5) データベース (A) でもデータベース (B) でも、Equal Education と Universal Education は同意関係である。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4) (5)

【No. 16】

機関リポジトリについて，大学，論文等の著者それぞれにとっての利点を簡潔に述べなさい。

【解答欄】

大学にとっての利点

著者にとっての利点

【No. 17】

次は、Peter Suberによる“A Very Brief Introduction to Open Access”の全文である。
(1)～(5)について、この記述に合致するものには○を、合致しないものには×を答えなさい。

Open-access (OA) literature is digital, online, free of charge, and free of most copyright and licensing restrictions. What makes it possible is the internet and the consent of the author or copyright-holder.

In most fields, scholarly journals do not pay authors, who can therefore consent to OA without losing revenue. In this respect scholars and scientists are very differently situated from most musicians and movie-makers, and controversies about OA to music and movies do not carry over to research literature.

OA is entirely compatible with peer review, and all the major OA initiatives for scientific and scholarly literature insist on its importance. Just as authors of journal articles donate their labor, so do most journal editors and referees participating in peer review.

OA literature is not free to produce, even if it is less expensive to produce than conventionally published literature. The question is not whether scholarly literature can be made costless, but whether there are better ways to pay the bills than by charging readers and creating access barriers. Business models for paying the bills depend on how OA is delivered.

There are two primary vehicles for delivering OA to research articles: OA journals and OA archives or repositories.

OA archives or repositories do not perform peer review, but simply make their contents freely available to the world. They may contain unrefereed preprints, refereed postprints, or both. Archives may belong to institutions, such as universities and laboratories, or disciplines, such as physics and economics. Authors may archive their preprints without anyone else's permission, and a majority of journals already permit authors to archive their postprints. When archives comply with the metadata harvesting protocol of the Open Archives Initiative, then they are interoperable and users can find their contents without knowing which archives exist, where they are located, or what they contain. There is now open-source software for building and maintaining OAI-compliant archives and worldwide momentum for using it.

OA journals perform peer review and then make the approved contents freely available to the world. Their expenses consist of peer review, manuscript preparation,

and server space. OA journals pay their bills very much the way broadcast television and radio stations do : those with an interest in disseminating the content pay the production costs upfront so that access can be free of charge for everyone with the right equipment. Sometimes this means that journals have a subsidy from the hosting university or professional society. Sometimes it means that journals charge a processing fee on accepted articles, to be paid by the author or the author's sponsor (employer, funding agency). OA journals that charge processing fees usually waive them in cases of economic hardship. OA journals with institutional subsidies tend to charge no processing fees. OA journals can get by on lower subsidies or fees if they have income from other publications, advertising, priced add-ons, or auxiliary services. Some institutions and consortia arrange fee discounts. Some OA publishers waive the fee for all researchers affiliated with institutions that have purchased an annual membership. There's a lot of room for creativity in finding ways to pay the costs of a peer-reviewed OA journal, and we're far from having exhausted our cleverness and imagination.

- (1) 学術文献と音楽・映像のコンテンツとでは費用に対する考え方は非常に異なった状況にあるが、オープン・アクセスにおいては、両者は同一の方法で費用を負担すべきである。
- (2) オープン・アクセス文献の製作にかかる費用は、従来の学術雑誌の出版と比べればより安価ではあるが、無料にすることはできない。
- (3) オープン・アクセス・アーカイブやリポジトリは査読を行っていないので、OAIに対応したソフトウェア上では他のアーカイブと相互にファイルを交換できる。
- (4) オープン・アクセス雑誌は、前もって必要な費用が負担された後にコンテンツが提供されているという意味では、放送局やラジオ局と同じ方法で運営されていると言える。
- (5) 査読制度とオープン・アクセスとは何ら矛盾するものではないが、査読制を設けたオープン・アクセス雑誌の費用を支払うために、研究者からの投稿料を増やしていく必要がある。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4) (5)

【No. 18】

2003年にアメリカ図書館協会（ALA）が公表した“Professional Competencies for Reference and User Services Librarians”に関するガイドラインでは、レファレンスライブラリアンや利用者サービスライブラリアンが専門的能力を発揮するために必要とされる行動が、事項ごとに例示されている。(a)～(f)の行動のうち、(1)～(3)の各事項に該当するものを二つずつ選んで記号で答えなさい。

(1) Communication and Outreach

A librarian effectively communicates the nature of the reference and information services that are provided to users being served.

(2) Evaluation

A librarian consistently and systematically evaluates the effectiveness of the marketing of reference and information services.

(3) Relationships with Users

A librarian treats the user as a collaborator and partner in the information seeking process.

- (a) Asks user's opinion and advice while working through the information transaction.
- (b) Decides what reference services and products will be retained and what changes will be implemented, if any.
- (c) Engages users through lectures, programs, tours, school visits, departmental addresses, and press conferences to promote the reference services offered.
- (d) Identifies new methods of service, new products and potential new users by participating in conferences, workshops, and professional associations.
- (e) Involves the user in the process and in making decisions.
- (f) Utilizes electronic media such as homepages, e-mail, mail lists, radio and television to promote reference services.

【解答欄】

(1) [] []

(2) [] []

(3) [] []

【No. 19】

次の英文を読んで、以下の問いに日本語で答えなさい。

When Michael Hart was a student at the University of Illinois (USA), in July 1971, he set up Project Gutenberg with the goal of making available for free, and electronically, the largest possible number of books whose copyright had expired.

This ground-breaking project became both the first Internet information site and the world's first digitized library. Michael himself typed in the first hundred books. When the Internet became widely-used, the mid-1990s, the project got a boost and an international dimension. Michael still typed and scanned in books, but now coordinated the work of dozens and then hundreds of volunteers in many countries.

The number of electronic books rose from 1,000 (in August 1997) to 2,000 (in May 1999), 3,000 (in December 2000) and 4,000 (in October 2001). Project Gutenberg had 5,000 books online in April 2002 and topped 10,000 in October 2003, when it had a team of 1,000 volunteers around the world making 350 new books available every month. These 10,000 books are also available on DVD for US\$1 each. Michael hopes to have a million available by 2015.

The books are digitized in "text" format, with caps for terms in italic, bold or underlined, so they can be read easily by any machine, operating system or software. Digitization is done by scanning. The book is then proofread twice by two different people, who make any corrections necessary. When the original is in poor condition, as with very old books, it is typed in manually, word by word.

Digitization in text format means a book can be copied, indexed, searched, analyzed and compared with other books. It also makes a smaller and more easily sendable computer file, unlike with scanning each page, which produces a bulky "photo" file.

- (1) プロジェクト・グーテンベルグの創設時の目標について簡潔に述べなさい。
- (2) プロジェクト・グーテンベルグの入力体制について、初期の頃と 2003 年 10 月を比較して簡潔に述べなさい。
- (3) テキスト形式で電子化する意義について簡潔に述べなさい。

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 20】

次は、Regina Roberts による “The evolving landscape of the learning commons” のうち、インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズの違いについて述べた文章の一部である。これを読んで、以下の問いに日本語で答えなさい。

A casual search through the literature and for learning commons websites online reveals a discrepancy in terminology. Many learning commons are referred to as information commons and vice versa. However, they are different. Many libraries already have information commons and in some cases the information commons has the function of a learning commons. In fact, the learning commons are a natural progression from the information commons model, especially because the technical infrastructure is already in place. This makes the differences subtle.

The information commons can simply be an online portal for library users to learn about information literacy or library services such as a web site. It could also be a cluster of computers in the library that have access to the online catalog or other electronic databases. In many instances, the information commons was developed for distance learning programs. In some ways these programs encouraged the evolution of the concept of the learning commons. Information commons assist users in knowledge seeking.

Whereas, learning commons are spaces with the technology and design that emphasize knowledge creation. The learning commons is the next phase of providing interactive research tools for students, faculty, librarians and staff. In the learning commons model, the library becomes a laboratory, a space for knowledge creation. The addition of production software is one of the major differences. A successful learning commons also relies on collaboration across disciplines and partnerships throughout an organization.

The distinction between knowledge seeking and knowledge creation is important and informs the planning and implementation of a learning commons. The learning commons concept is a much broader model than the information commons. However, both types of commons are a means in which the library organization seeks to maintain its place as a center of knowledge creation and intellectual stimulation. It is not a small task to create a learning commons. However, it is not impossible, especially with interdisciplinary collaboration and institutional support.

ラーニング・コモンズとはどのような場所であると主張されているか、インフォメーション・コモンズとの違いを示しながら簡潔に述べなさい。

【解答欄】